

個人	098	滋賀県彦根市 宇野 道雄
----	-----	--------------

琵琶湖部会「意見聴取の試行のための会」河川整備についての意見

1. 水質の悪化や生物の種の減少、開発による自然景観の改造、生活の急激な変化と自己中心的な行動等により、将来の生活に不安を抱かざるを得ません。
この原因は、より豊かな生活を求め、ひたすら働いてきて得た結果でもあります。
なかでも、琵琶湖の水質や環境の悪化は、われわれ人間に責任があるのではないのでしょうか。
2. 私の住んでいる新海浜の砂浜が消えて崖になった「砂浜の砂はどこに消えた」と云うこともテーマにして、委員会で作成される「20～30年先を見据えた整備計画」に織り込んでいただきたいことをお願いしました。その後、この問題は、琵琶湖全体に及んでおり、それらしい原因も私なりに判ってきました。それは、
 - (1) 琵琶湖に注ぐ主要河川の上流にダムを造り、土砂供給を絶ったこと。
 - (2) 河川や琵琶湖内で建材用として砂利を大量採取したこと。
 です。そして、琵琶湖周辺の砂浜の多くは、湖の平準化運動によってその穴埋めに使われていったということです。
3. もともと砂浜は、長い自然の循環のなかで形成されてきたものであり、いま、取って付けたように砂浜を造成しても、その砂浜が養われるためには、超長期間が必要と考えます。即ち、「造浜」はできても「養浜」は難しいと思います。なぜなら、その砂浜を保持する力は自然循環にまかざるを得ないからです。
4. これからの河川整備は、自然復元という視点だけではなく、人間が真に豊に暮らしてゆくために、琵琶湖を例にとれば、周りの山から琵琶湖にいたる、全てのものを対象に、自然創生をはかる必要があると考えます。
5. その対策として
 - (1) 命を保持するために水質の悪化を防ぐことを基本に、多様な生物が生存して行ける環境の創生、環境を悪化させる原因物を減らす(選択)ことを中心に考えることとしてはいかがでしょうか。
 - (2) 具体的には、
 - ・ 山林の保水性をたかめ、自然のダムをつくる。
 - ・ 主要河川に流入する水は自然水のみとする。
 - ・ 生活・農業・工業等使用水は内湖等を通し浄化をはかった後放流する。(雨水との分離をはかる)
 - ・ 陸部と湖水部を遮断しないようにして、自然な生態系を創生する。
 (水位管理の適正化－浜欠けをこれ以上進行させないにより、湖浜植物の保護と育成。河口部の自然化と湾土的なところを設け、魚類や植物と人間の自然なふれ合いの場をつくる。等々)

以上

個人	099	兵庫県尼崎市 酒井 一
----	-----	-------------

余野川ダムの利水計画中断の要望

私は、猪名川支流の余野川ダムについて、建設を中止すべきだと考えます。

同ダムによって生じる利水の 90%、日量 9 万 t を阪神水道企業団が取得する事になっており、そのための 137 億 5 千万円の負担金もかなりな金額が既に払い込まれています。

しかし近年の産業の変化、人口の停滞傾向、節水意識の向上などの結果、阪神水道企業団構成の四市の水需要が、今後大きく伸びる事はもはや考えられません。最近 10 年間の阪神水道企業団の配水実績を見ても、1 日最大排水量は 1994 年の 975060t を最高に、100 万 t を上回った事はありません。

これは同企業団の取得済み水源 1193800t の 82%にとどまります。同企業団にとってこれ以上の水源確保は不要となっているといえます。

したがって取得予定の余野川ダムの水利は、阪神水道企業団にとって、もはや不要です。またもう一つの利水取得予定者の箕面市もその水源を不要としていると聞きます。不要な利水開発をこれ以上続けることは、水道事業への負担、ひいては市民への負担をいたずらに増大させるだけです。

また治水面でも、余野川、猪名川の現在の計画高水流量は過大だとの説があるなど、このダムの必要性はなくなっていると思われます。財政的にも大きな負担であり、自然破壊の弊害については言を待たないこのダムの建設を、この際根本的に見直されるよう要望します。

個人	100	滋賀県神崎郡 中川 治夫
----	-----	--------------

私は、琵琶湖の傍らに生まれて、半世紀の間、琵琶湖に遊んできました。琵琶湖総合開発特別措置法が公布され、琵琶湖総合開発計画が閣議決定されて25年になろうとしています。琵琶湖の水質は年々悪化しているように感じております。下水道等はまだ事業なかばであることから致し方ないとは思いますが、流入河川の改修工事を見てみると、国土交通省の河川の清流の回復や多自然型川づくり等河川再生事業が紹介されているにもかかわらず琵琶湖に流入している河川(支流も含む)の改修工事には活かされず、相変わらずコンクリートの護岸の河川改修工事が行われています。これでは水が浄化されず一気に流れてしまいます。

琵琶湖総合開発の内容にある河川環境整備もこうした河川改修工事に活かされていないことも水質を悪化させている原因ではないでしょうか。国や県の財政困難ななかで貴重な公費で行う事業でありますので、事業の効果(水質の保全)が上がるよう河川を緑の回廊になるように河川改修工事を行っていくことが重要です。

上記は一例であります。現在、施工されています公共事業(市町村の地域開発事業も含む)も琵琶湖総合開発計画に照らし合わせて琵琶湖の水質の保全に効果が上がるかどうか評価して見直す必要があるのではないのでしょうか。

個人	101	大阪府河内長野市 関 正雄
----	-----	---------------

河内長野市在住の関です。20年前は大阪市内に住んでいまして、小さい頃は淀川の河川敷でよく遊びました。淀川に思い出が沢山あります。

淀川水系流域委員会および近畿地方整備局に意見させていただきます。

現在淀川水系で建設計画中のダム計画、丹生ダム、大戸川ダム、川上ダム、余野川ダム、安威川ダムの是非について流域委員会でしっかり検討してください。その判断要件としては以下のものをお願いします。

①利水について

- ・ 開発水の供給事業が具体化され、事業実施のスケジュールが明確になっているかどうか。
- ・ 開発水の需要がダム建設終了後に確実にあるかどうか。
- ・ 開発水の需要予測が過去の需要実績と比べて過大でないかどうか。
- ・ 代替手段(節水施策、漏水防止対策、地下水の利用等)に代えることができないかどうか。
- ・ 農業用水の場合は現時点で対象農家の〇割以上から同意があるかどうか。

②治水について

- ・ 計画規模(〇〇に一回の洪水)について地域住民の同意が得られているかどうか。
- ・ 基本高水流量が過去の洪水流量からみて適正であるかどうか。
- ・ 治水計画に現実性があるかどうか。(実現する見通しもないその他のダム計画を前提にしているか)
- ・ 河川改修等の代替手段で対応できないかどうか。
- ・ 治水計画において治水関連データに不合理性がないかどうか。

③自然環境について

- ・ 希少動物の生息・生育に影響を与えないかどうか。
- ・ 動植物の生息・生育に大きな影響を与えないかどうか。
- ・ 水質の悪化が起きないかどうか。

④生活環境について

- ・ 水没地区住民および周辺住民の同意が得られているかどうか。
- ・ 地元自治体の同意が得られているかどうか。

以上です。

よろしくご検討ください。

個人	102	大阪府大阪市 保持 尚志
----	-----	--------------

1. 淀川の水質について(主に3川合流点より下流)

有機物や有害物質の濃度という視点だけでなく、「生物や植物の生息・生育から見た望ましい水質」「親水利用から見た望ましい水質」といった水質管理を進めてほしい。

リン・窒素などの富栄養化物質の濃度が高いため、河川が富栄養化して河川の動植物に対して悪い影響を与えているのではないかと考えている。

下水処理水の高度処理や、流水保全水路の設置などの対策を進める必要があると思う。

2. 高水敷利用について

淀川の自然環境と、人の高水敷利用とのバランスを高度化してほしい。

現況の高水敷利用は、いわば公園利用であり、淀川の自然環境や河川空間・水辺空間という河川独特の空間を十分に生かし切れていないように思う。

また河川敷は例外なく無料開放された方が良いのではないかと。一部に見られる有料区域はできれば縮小、廃止していく方向性を考えてほしい。

3. 3川合流点より下流の景観について

多くの大都市にはそれぞれ代表的な河川が伴っているが、大阪における淀川はやや印象に乏しいのが残念である。

ひとつにあまり景観的に良くない点が挙げられると思う。川の両岸に並んだ統一感のないビル群や、堤防から見えるムシクイ状に宅地開発された水田などは見ていて悲しい。

スーパー堤防化した上部空間はすべて河畔林にするなどして、堤内地の雑然とした景観を遮蔽し、堤外地に美しい淀川の景観を造ってほしいと思う。

4. 流域にあるダムについて

現在あるダムについて、30年なり100年なり先にどうするのかビジョンを示した方がよいのではないかと。

未来永劫にダムを維持していくのか、あるところで廃止するのか、廃止するなら何時、どのような条件下で、どのような形で実施するか。

砂防についても同様で、未来永劫に我々は砂防ダムを造り続けるのか。

5. 公共事業の進め方について

高い志をもって理想像を追求してほしい。

100年後にこうなる、とか200年後はこうしたいとかいう計画もあって良いのではないかと。

今の公共事業に欠けているのは将来の夢や理想ではないかと思う。それは「便利」や「安全」の次に来るキーワードではないか。

個人	103	大阪府大阪市 山田 晃代
----	-----	--------------

問題点

河川工事に関しての情報公開が地域住民に対していつにどのような方法でされているのか。

→地域住民はどこまで知っているのか、または合意形成されているのか

実例) 淀川区塚本 1 丁目にあたる淀川が今年に入って河川が整備された。

滋賀県の排水規制の条例の成果か、ここ数年淀川の水が明らかにきれいになった上、10 年～20 年前は見かけなかった鳥が沢山川に帰ってきていた。が、整備された後は、鳥の姿は少なくなり、整備の必要性がどれほどあったのか、疑問が残る。

また、逆に子供たちが遊ぶときには、砂利でテトラポットのように固められてしまうと、砂地を歩き川へ足を軽くついたりするような遊びが出来なくなってしまうのではないかと、とも思う。

理想・要望

河川工事をして整備されることは、洪水や生活の安全面で必要なかもしれないが、自然との一体化を子供たちが感じて豊かな心を持つようになることは大切であり、触れさせる機会を作るのは大人である。その為にも、近辺住民との合意形成、工事の必要性の熟考の場を持ちたい。

また、子供対象に川と触れ合うワークショップみたいな場を開催されることを望む。

個人	104	滋賀県伊香郡 村上 宣雄
----	-----	--------------

淀川水系流域に関する意見

私は淀川の源流に位置する余呉町に住む者です。このホームページにも時々目を通しています。21 世紀の新しい川作りを求めて自由な発想で委員の皆さんが検討されている事に対して、敬意を表しています。そして成果を期待している一人です。

現在私は、高時川の最上流で行われているスキー場(丹生ダムより上流)の拡大に伴う開発事業のありかたを協議する環境保全に関する協議会の会長をしています。すでにご承知の通り、無謀な開発行為によって高時川に大量の濁流が流れ、その解決策に企業も、行政も、私たち協議会も頭を悩めています。

私は、何回も協議会を開催し、県当局や業者とも話し合っていますが、事はうまく進んでいきません。多くの時間をかけ、必死の努力をしても現在のところ環境保全の意見が十分反映されるシステムにはなっていません。

以下問題点と提案を列記します。

①今の開発の許可が出せるシステム(行政サイドでは出さざるを得ないシステム)は十分にチェックシステムを追加するなど変更していく必要があります。

②淀川水系で、河川を保全するために開発をしてはいけないエリアを事前に 決めることがたいせつです。この場合、豊かな環境が残されているエリア(植生や魚類等が豊かである)を重点的に選び出す。この作業は上流のみでなく、下流までのすべての淀川水系で行う必要かあると思われる。

淀川水系保全エリアベスト 100～200 選び出す。この場合景観も大切ではあるが、生き物の多く生育している空間(ビオトープ空間)を選定基準にすることが望ましい。

③現在淀川水系で実際に行われている工事をリアルタイムでわかるようにする。ダム工事や河川工事、企業の開発工事、浚渫工事などに区別してわかるようにする。そしてそれぞれの事業が環境保全の立場からうまくいっているのかがわかるようにする。

④住民参加型の河川工事の推進

これについては、建設省も県も住民参加型の河川作りを展開している。すでにその成果が現れているところもあれば、そうでないところもある。これらの情報をマップ上にリアルタイムでわかるようにする事が必要である。

⑤データの公開

すでに国や、県によって多くの河川事業が行なわれてきた、現在もなされている。21 世紀の川作りに役立つ事例もある。それらの情報を公開していく必要がある。どこの川作りを参照すれば、良い川作りができるの一目瞭然でわかるようにしてほしい。現在滋賀県の生物環境アドバイザーとしていろいろの河川工事に携わっていますが、現地での対応は大変厳しいものがあります。

ご指導とご支援をよろしく申し上げます。 以上

個人	105-02	三重県上野市 清水 敏代
----	--------	--------------

子どもが遊べる川に

今年3月、伊賀を流れる木津川で、不幸にして二人のお子さんがお亡くなりになりました。聞くところでは、落ちてものぼって来られないような護岸だったそうです。

今、国の川づくりも住民の意見を聴くスタイルをとるところが多いようですが、全員の意見を聴くと河川工事ができない、という話も聞きます。自然に近い川、維持管理が楽な川、相反する要素があるのは素人の私でも何となく理解できます。個々の事情を考慮すれば、どうしても難しい問題があるのですが、基本として子ども達が安全に入れる川が身近にあることを願っています。自然に危険はつきものであり、その危険を知ることにより、生きる力を子ども達は身につけるのだと思いますが、今の川は子ども達が近づくことさえ拒んでいます。

子どもが入る川を、大人たちはきつときれいにします。そして、子どもが喜んで遊ぶ川には、きっとたくさんの生き物がいるはずです。21世紀の川はそんな川であってほしいと思います。

「自然史観点による河川の望ましい姿の検討」の提案

河川環境整備にあたって、その地域の特性や過去の環境を考慮して検討されていると聞いた。しかし、過去の環境を知ることの意義やその手法はどのくらい理解されているのだろうか。

過去の環境を把握する場合、過去の地形図や写真などの資料とアドバイザーや大学教授など学識者の意見、その人が昔河川と係わった経験から、「あのころは、こんなだったから・・・」というが多いように思う。これではあまりにも論理的でない。

過去の環境を知る意味は、過去からの変遷のなかに現在をどう位置づけるか、そして現在を評価することにある。過去の姿が、あるべき姿とは限らない。つまり、過去の姿を検証することも必要となる。

あるべき姿の時代として目標にされることが多いのが、高度経済成長期前の状態である。この時代は、戦前から戦中にかけての気候転換期にあたりと共に、山地が荒廃していた時代でもある。このことを認識し、発言されている学識者の方がどのくらいおられるのだろうか。

今まで、歴史科学である地質学と環境科学や河川工学で取り扱う時間スケールのオーダーが異なっていたため共通のパラダイムを見いだせずにいたが、「第四紀研究」の手法を用いた最近の環境変遷過程に関する研究が行われ、高精度に過去の環境を復元できるようになってきた。

私は、このような研究手法を環境科学や土木工学の応用する「自然史観点による河川のあるべき姿の検討」を提案する。

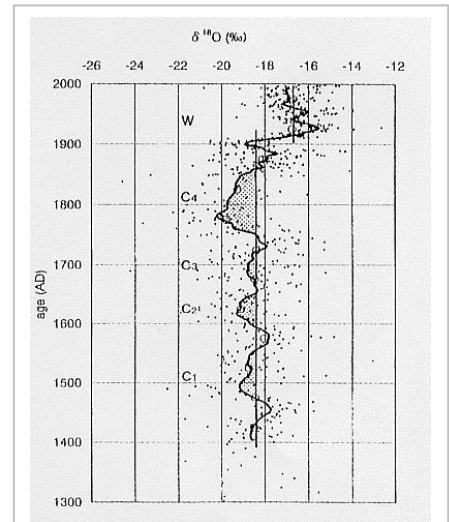
自然史とは、人間の自然との関わりを発達史の見知から理解する学問である。地球環境問題に対するアプローチとして、「第四紀学的観点」(人間と自然の相互作用に対する歴史的なアプローチ)の必要性が強調されている。そして、複雑な自然環境システムを解明するためには、その生い立ちを知るのがもっとも重要なアプローチの方法であるとし、自然史の復権がこのさい必要であると言われている。

現在の生物多様性に関し、生物の環境空間利用様式から環境創造を行うことに対して、動的な地形地質の形成プロセスや機能を考慮しなければ、持続可能な土地利用および環境保全にならないと考えられている。

「動的な地形地質の形成プロセス」とは、河川の地形や機能は生成、発展、消滅の過程のもとで変化しており、生態系など環境の維持基盤を存在せしめている地形地質の形成過程を長期的視点で保全することなしには生態系や環境の保全は実現しないという見方である。つまり、河川はこうあるべきだと人が決めるものではなく、河川は河川として発展(成長)することのできる機能を維持させることが大前提である。そのうえで、環境や防災といった人と自然の係わり、人と人の係わりの歴史の中であるべき姿を考えてはどうだろうか。

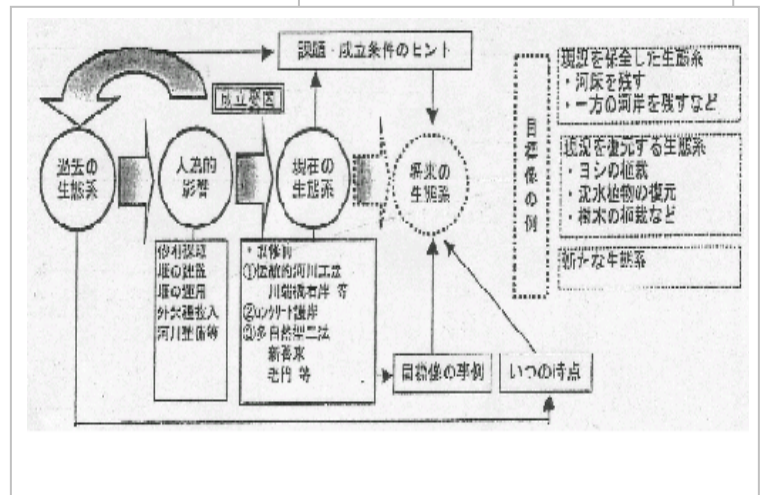
淀川水系流域委員会において、河川のあるべき姿を検討し、さらにその姿を維持するためには個々の保全措置の他に、流域単位で環境を検討するという考え方には賛成である。

しかし、20~30年後と言わず100~200年のオーダーでの検討が必要であり、これには自然史の観点による検討が貢献できると思う。



北極、スバルバル諸島北部氷河の雪氷層が示す近年の温暖化傾向(日本隊の観測)。C:寒候期、W:暖候期、横軸は酸素同位体組成値でマイナス値が小さい程、降雪期の気温が高い

(出典:渡辺興亜,2001,ESTO NWES)



以上

個人	108	大阪府大阪市 玉木 瑛
----	-----	-------------

淀川「毛馬・赤川地区」河川敷を市民の自然教室に

はじめに この提言には、以下のような「限界」があることを最初にお断りします。

①私は河川工事および防災に関する格別の知識を持っていません②健康法を兼ねて毎朝、淀川・河川敷を散歩していますが、基本フィールドは淀川左岸・毛馬ー赤川地区に限定されます③趣味として探鳥ならびに野草観察をしていますが、初心者です。

提言 「毛馬・赤川エリアを市民の自然教室に」というのが私の提言です。ここにはワンドをはじめ淀川特有の、かつ多様な自然が残っています。隣接して城北公園もあり、また(不満な点はありますが)河川敷公園が整備されています。住宅地帯から近く、交通も便利で、一般市民が自然に親しみ、自然を学ぶスポットとして格好の条件を持っています。

基本原則の確定 提言実現には「これ以上、自然を痛めない」という最優先原則を確定することが第一です。これまでの公園管理は、とにかくコンクリートで固め、芝生で固め、下草は刈りつくし、立木を理由なく伐採する——もののように見えます。環境は一見、小奇麗になっても、実際は自然を衰弱させるばかりだと、私は感じています。

現在の行政手法は、自然の「徹底した人工管理」か、そうでなければ「立ち入り禁止の聖域化」か、の両極に分かれ、一番大事な「自然に親しみ、共生する」という選択肢を放棄しているのではありませんか。前者では自然は衰弱し、後者では一般市民が自然を体感することができません。「聖域化」のため「荒れ果てた」自然もあるのじゃないですか？

新概念の導入を これから始まる毛馬・赤川地区の「水際帯整備・自然復旧」工事には、だから新しいコンセプトが必要です。そしてそれは、「里山」に対置される「里河原」とでもいうべき発想であってほしい、と私は願っています。本来、このエリアの特徴は、ワンド池、クリーク、葦原、草地、農地、点在する立木など、自然構成がバラエティに富んでいることです。その環境に応じ、また季節に応じて、野鳥や野草の種類も多様かつ豊富です(私のような初心者でも、年間 50 種ほどの野鳥を見ます)。

いまある、この自然を痛めないこと。ことに立木の伐採はすべきではありません。というより、秋には実をつけ、鳥が喜んで集まってくる種を増やすことです。野草だってセンニンソウ、メハジキ、クコなど勝手に除草されては困ります。野草は自然のままで宜しい。

私見では、今の農地にしても生かしようがありそうだし、4面ある野球グラウンドは、うち2面を湿地状態に戻せば、渡り鳥のシギ、チドリ類が、また来てくれることが期待できます。「市民のための自然教室」に発展する基礎条件は十分あるのです。

小学生の学習トレイルを 自然に親しむには、小学生のころから実物に触れるのが近道。とあって、エリア内に観察館を新設するといった古い土建屋の発想はやめましょう。また行政がイベント屋になってはいけません。現在ある農道や魚釣り道を生かし、各スポットを結ぶ、安全な観察トレイルを確保すれば十分です。これは、ぜひ実現してほしい。

このエリア内に「イタセンパラ発見の地」という石碑があります。しかし、私どもが建てるべきは「イタセンパラ復活・繁殖の地」という碑ではないでしょうか。 (止)

個人	109	滋賀県守山市 田中 健一
----	-----	--------------

これからの大河川と沿岸地域

(はじめに)

淀川水系琵琶湖、この琵琶湖に流れる最大の河川野洲川の沿岸住民としての立場から、今回の河川整備計画の策定にあたり、『これからの大河川と沿岸地域』について意見を申し述べます。

(野洲川と沖積平野)

鈴鹿山系を源とする広大な流域の水を集めた野洲川は、石部・甲西山地の狭隘部分を抜けた地点から、低地に向け幾度か河道を変え、野洲川沖積平野を形成しつつ現野洲川となりました。

この野洲川は別名近江太郎と呼ばれ、新放水路による河川改修が概成するまでは、常に洪水との闘いでした。特に古代の社寺等の建立などによる野洲川上流域の用材の切り出し等により鈴鹿山地の花崗岩系の流出土砂が多くなって河床が高くなり、これに併せて堤防を高くする繰り返しの中で、改修前の『天井川野洲川』を形成していました。

(野洲川流域と沿岸地域)

この野洲川河道のうち中流部石部・甲西山地の狭隘部分より上流がほぼ流域(集水地域)で、下流が古来より主として利水(あるいは洪水)などを受けてきた沿岸地域であります。

この沿岸地域は、今の区域でいうと守山市・野洲町・中主町の全域と栗東市のほぼ半分、草津市の一部地域となります。

この区域は、野洲川の豊富な伏流水による湧水や野洲川から直接樋越(透水樋・樋門)により取水していました。

(水環境の変化)

このような水環境の豊かな野洲川沿岸地域では、昭和30年代後半から徐々に水環境が変わってきました。すなわち、骨材採取による河床低下や野洲川改修事業と社会・経済情勢に伴う工場用水・水道水・農業用水等のくみ上げの影響が考えられます。

今では、沿岸地域にあった多くの湧水池は、すべて枯渇し、樋門も撤去されました。農業用水も沿岸地域の湖岸よりおおよそ三分の二は琵琶湖からの逆水となりました。上流部は、野洲川石部頭首工からの利水と地下水からの汲み上げであります。

したがって、非農業用水期は、野洲川沿岸地域は殆どの河川水が減少し、常水の無い河川が出現しています。

とりわけ、野洲川改修事業新放水路に用地協力した中洲地域(旧野洲川南北流の中間地域)は、各集落内も伏流水が豊かでせせらぎのある水郷の土地で有ったのが、今日では一切の自然水が無い乾いた郷土となりました。

(これからの河川整備計画について)

こうした野洲川の沿革や水環境の現状の中から考えると、これからの河川整備計画は、河川の流域計画だけでなく河川の沿岸地域も含めた区域、すなわち河川環境影響区域についての総合計画を樹立されるべきであり、次の二点に絞って意見を申し述べます。

1. 野洲川沿岸地域の地域環境用水の復活(野洲川から直接取水等)

野洲川流域に降る雨は、昔も今も変わるものではありません。だから、河川と沿岸地域の関係も昔と今と大きく変わっては困ります。ここ40年間の環境を省みなかったつけが今きています。治水だけしか考えなかった河川改修、経済成長に酔い川と沿岸の関係や地下水源等の水環境に配慮できなかった社会環境に問題があったのです。

だから、今からでも遅くありません、昔の川と沿岸地域の環境関係を復活させることであります。今も続いている野洲川改修事業の中で、野洲川から直接取水できる工夫等沿岸地域の水環境を復活させる対策をお願いします。(例、野洲川落差工からの取水、頭首工等の改修では地下の水みちの確保など)

2. 改修された河川内の利活用

野洲川のような大河川で洪水確立100年、疎通能力4500t/毎秒、かつ左右に50mの高水敷をもつ近代的に改修された河川の管理については、河川空間の環境管理としてはどうあるべきかでしょう。

まず、河川の低水敷では、個々の河川がもつ個性的で自然な河川として管理されるべきですが、余りにもゴミや大きな柳などの立木が手付かずであるのは、河川の疎通障害にもなり、景観上好ましくなく適正な管理が望まれます。

また、改修河川の高水敷は、雑草のまま放置もできないし、だからといって毎年除草しているだけの管理なら、沿岸住民の親水空間として環境学習や自然教育の場、人々の交流の場として、河川公園などに必要に応じ活用されるべきではないでしょうか。

特に、野洲川は平成元年全国に先がけ『河川環境管理基本計画』が策定されており、平成8年には全国で始めて直轄河川として『ふるさとの川整備河川』の指定を受け市内では立入河川公園を整備いたしております。

守山市では、今野洲川新放水路区間で2ヵ所小規模河川公園の河川占用の協議を行うとともに1ヵ所はすでに申請を提出いたしていますが、こうした沿岸住民の利活用が容易にできるようにお願いします。

なお、守山市では野洲川の親水期には、野洲川での沿岸住民のふれあいとコミュニティの場として3つのイベントを開催しています。1月に野洲川親子タコあげ大会(17回)、3月に野洲川健康ファミリーマラソン大会(18回)、7月に野洲川冒険大会・いかだくんだり(20回)であります。

個人	110	大阪府枚方市 平山 紘一郎
----	-----	---------------

淀川水系流域委員会への意見提案

1. 問題点

我々年輩者が子供の時には、非常に近い関係にあった川が、現在の子供達にとっては、遠い存在、或いは近寄っては危ないものとして、教えてしまっている事が問題点と考える。

2. 理想・要望

日本の河川は距離に対して高度差が大きく、一寸した大雨でも大水が出て、洪水になります。淀川でも 1972 年に死者 10 名、浸水家屋 4 万 3 千戸という洪水がありました。その後 30 年間、関係者の努力でありがたいことですが、淀川から洪水はなくなりました。

今後もスーパー堤防等で対策を進めて行く必要はありますが、ソフト面での努力に力を注ぐ時になったと考えます。

アメリカ・サンアントニオの運河のように、川床料理で有名な貴船川のように、長靴で、或いは素足で水辺に子供が下りても危なくない川づくり。

水質は市民全員が自分たちの問題として、関与していくものとして啓発していく。

いま淀川では釣り人が増えています。しかし、釣った魚を食べますかと聞いても、一人として食べるとはいいません。鮎が釣れる川になると雑魚でも食べられると考えるでしょう。鮎が釣れる水質が目標。

1990 年頃に「お帰りなさいサツキマス」というイベントを行っていましたが、

最近では聞かなくなっています。しかし、帰ってきたサツキマスが自由に淀川を遡上できること。

淀川より大阪湾に船では淀川大堰にて塞き止められる。緊急用を含め、舟運のための対策を。

3. 実現方法

淀川における洪水対策は、ほぼ終了とし、真に親水という観点から淀川に対する検討を進める。

水質対策は官・産・市民が自分達の問題としての自覚を促し、それぞれの立場から対策を求める運動をおこす。

魚道の設置。

大堰に水門を設ける。

4. その他

淀川のホームレスは最近異常に増加している。安心して家族の憩いの場とはなり得なくなっている。対策が必要。

ここでの淀川は枚方より下流をイメージしています。

個人	112	三重県阿山郡 森本 博
----	-----	-------------

川についての意見

ここ十数年来木津川上流部の服部川・柘植川・河合川等の河川の様子をみながら、中でも服部川の水生昆虫を観察していますが水生昆虫の種類が年々減ってきているように思います。かつての(昔の)川からみれば、河川改修等で川の土手や藪が取り払われて水の流れはよくなったようですが、川の蛇行部が改修されて瀬と淵がなくなり“ずんべらぼう”になった感じです。さらに河合川の上流部には幾つかのゴルフ場ができ、その他の開発も加わって、それらの工事中もそれから後も今でも川に土砂が流れ込むようになりました。その結果川底の大小の礫が砂等で目詰まりをおこして所謂「浮き石」がなくなり川の虫も魚も住みにくい状況になっています。

また、川の所々には大量の砂が堆積して、こういう所にはアシが生え、いやアシの生える所に砂が堆積するのか、ともかく益々砂が溜まるようになり洪水の時には心配な状況になっています。そうかといって、ここにブルドーザーを入れて一気に土砂を取り去ると、川の中ではほそぼそと生活しながらかうじて生き残っている虫や魚の住処が、さらに悪化して取り返しのつかない(中でもホタル等)状態になるように思われます。

さらに、川の上流部の田圃に連なる部分では、減反政策による休耕田が増加して耕作が2年～3年と放棄されるなかで、「畦くずれ」を起こし、それが放置されると保水力をなくし「緑のダム」の効果は減退、そのうちに灌漑用水路もこわれていきます。それが補修されると今度は「U字溝」となって、はまれば地獄となり所謂“里山”の歴史とともに進化し住み着いてきた動物カエルやメダカ・ホタルやトンボが住めなくなってきました。

これらの状況をどうすればよいのか。環境の悪化の現状からみれば、川の水質ばかりでなく構造にも目をむける必要があります。しかしあまり考えている時間はなさそうです。

もう一つ心配があります、「川上ダム」についてです。1968年(昭和43年)5月洪水調節と下流住民の安全を図る目的(木津川水系防災治水対策)として建設省近畿地方建設局が発表した「前深瀬ダム」＝「川上ダム」当時の発表で高さ65m、堤頂長280m、総貯水量2,000万トンのダムが、建設省の発表から33年たった今はたして必要なのか。

私は20年余り前に近畿地方建設局木津川上流工事事務所から「木津川上流生態環境調査委託業務」として委託を受け、渋谷寿夫(大阪経済大学教授 動物生態学)・中島経夫(京都大学大学院生 魚類学)()内は当時、と3人で調査をして1978年(昭和53年)3月に木津川上流工事事務所へ社団法人淡水生物研究所から、「木津川上流部(川上川、前深瀬川、木津川、名張川、青蓮寺川、宇陀川)の魚類調査報告」として冊子を提出しています。そこで、「川上ダム」の建設を今になって進めるとするならば、今一度ダムにかかわる流域の生態調査をして20年前と比べて現在どうなっているか、それからダムが完成した後関係河川の生態調査をして、ダムの影響がどう現れてくるかを調べるてだてを今立てておく必要があると思います。このことについてはまだ言いたいことがあります、紙面がなくなりましたので又の機会にします。

個人	114	大阪府大阪市 高島 春吉
----	-----	--------------

淀川の整備計画に伴う期待

淀川は琵琶湖の瀬田のから橋から起算して大阪湾まで約 70 キロもある。川は生態学的には生物が移動するのに都合がよいバイオコリドー(生態回廊)そのものと言われている。淀川は、まさにビオトープが 70 キロも続いていた処だ。この長大なビオトープの連続はエコトープと呼ばれている。30～40 年以前の淀川はそのようなエコトープであったものを、いつのまにかコンクリートによる改修や直線化がなされ、結果生き物の園は徹底的に破壊され、今日の貧生態系とも言える姿をみせている。

川を眺めて、こころが癒やされる景観が無く、住民の心が「よどかわ」を離れ、淀川が単なる排水路としての認識に変わっていった所以である。加えて水質も極端に汚れた。

もし、淀川が、今回編成された淀川水系流域委員会の英知で生態系を伴った元の淀川の姿が少しでも戻るなら、取り戻したいものがある。それは、流域住民が抱いていた「川」への想い、川に寄せる故郷への想い、川への郷愁の復活である。

淀川をはさんだ両堤防の外側1キロ以内には、大阪湾～枚方の間だけでも小学校が 50 校を下らないほど存在する。小学校は淀川に沿って建てられている、とっていいほどだ。ここに淀川の未来を評価する小さな市民がいる。20～30 年後の淀川を評価するのは、この子どもたちであることを忘れてはならない。

淀川の堤防下の小学校に父兄の協力を得て「学校ビオトープ」の建設が実現すれば、淀川で生まれ育った鳥や昆虫、植物に至るまで、生き物は次々学校ビオトープに飛来する。そして、その観察ノートは、学校のすぐ裏の淀川と、このビオトープは生態系がつながっているんだと理解するだろう。この観察データは学校間で比較、子どもたちによる淀川水系ビオトープサミットなどもでき、総合学習の時間の自然環境問題の教材としても利用できる。こうして学校と淀川がつながると、子どもたちは川の事が気になくなる。川への関心がたかまり、少しずつ理解を始めるだろう。そして、川からは子どもたちに、自分がどれほど健康になったかというメッセージを鳥や昆虫に托して、学校ビオトープへ日夜、「淀川の情報」を送りつづけるにちがいない。

個人	116	京都府京都市 山内 輝治
----	-----	--------------

私と川との関わり

私は生れは亀岡市に生れ、小さな頃学校にプールが無く、桂川上流保津川によく泳ぎに行き、川に育てられました。又台風シーズンにはよく氾濫致しました。今は京都市桂近くに住んで好く桂川に行きます。昨年度は天竜川 24 時間水質調査(飯田市内)伊那テクノポリス、京都府の川に生きる生物調査にも参加致しました。下水がある程度完備され、水質が好く成って来ています。私の住んでいる小畑川にも、川になが増つつあります。私現在川になを養殖し、川に放流、ホテルが飛ぶ日を楽しみにして居ます。桂川も川になが増つつあります。又夏はアユシーズンに投網を打ちます。8 月 13 日解禁日を楽しみに、又嵐山近くの松尾橋左岸下流で週 1 回ターゲットバードゴルフを楽しんで居ましたが、公園敷地と云う事で禁止に成り、現在グラウンドで平日に行われています。我々日曜日しか休めず、参加ができません。私が将来の河川改造計画にぜひお願いしたい事は、嵐山東公園附近にあるような水洗トイレの設置、「仮設ではなく水洗」又、桂大橋下流左岸に、日曜日、青少年が野球練習、又釣りを楽しんでる方、犬の調教されてる人々が多く利用されています。又車で来られる方もあり、入口はカギがかけてあり、附近に自動車が駐車しています。管理上の問題もあるかもしれませんが日曜日位カギをあけて、中に駐車場を設置し開放を要望します。又同じ金を掛けて、施設を造るなら、立派なもの、テニスコート、野球場、釣り場、堤防法面クラブハウス、売店、ターゲットゴルフ場、ゲートボール場とのスポーツ施設の建設、有料で、又後の維持管理、民間に委託し、シニア、シルバーセンター等に委託するとか、金の取れる施設、管理、日本の河川の要所に川の駅を設置を強く望みます。桂川も上流に日吉ダムが出来、洪水もないように思います。桂川を愛する一人又、川を利用し楽しむものとして、健康な老人を生産する施設はスポーツ施設ではないかと思えます。国民保険も高くなって来てます。運動して健康な身体造り、国の為、自分の為ではないでしょうか。又管理部内においても、高齢者の雇用産業の一つとして、21 世紀に立派なスポーツ施設の建設、川の駅設置を全国に、一日も早く造って頂きたく要望致します。川を愛し、川を楽しむ一人として、よろしくお願ひします。

個人	117	大阪府枚方市 森田 清一
----	-----	--------------

治水と河川の自然環境の調和について

淀川水系淀川、木津川、桂川の三川合流点上下流の自生樹木処理について、考えたいとおもいます。私の所属している水防団の会合では、河川内の立木を河川管理者はどのようにして放置しているのかといつも聞かれます。河川環境保全の難しさを説明しても、水防団の性格上どうしても考え方が治水が主体となり納得が得られません。しかし水防団員が主張するように、このまま放置すれば出水時の流水阻害はもちろん出水後は立木の倒壊や、ビニール等の塵埃が立木にかかり大変な環境破壊が出ると思います。その為事前に対策を講じる必要があると思ひ下記の6点を提案致します。河川は山や原野では無いという原点に立ち、なおかつ河川環境上立木も必要なものであるとの観点から考えたいと思います。

記

1. 現況を充分調査把握する。
 2. 高水敷では単位面積(策定)当たりの樹木の本数をきめる。
 3. 樹木の太さ高さの基準をきめる。
 4. 野鳥の会等と協議し伐採の時期をきめる。
 5. 高水敷と河岸部に分けその対応を区別する。
 6. 伐採の年次計画をたてる。
- 以上の資料を基に自然保護団体、水防団等と充分協議して事業を進める。

個人	118	滋賀県伊香郡 近藤 斉伸
----	-----	--------------

1. 丹生ダム事業計画と平成13年度郡内各町村河川改修等の国、県当初予算に関する要望の関連について
高時川流域水系
1市7町(長浜市、余呉町、木之本町、高月町、虎姫町、びわ町、湖北町、浅井町)
2. 高時川流域水系の歴史的背景と現状
洪水と渇水による流域被害
☆ 近年の主な洪水被害状況
☆ 琵琶湖、淀川流域における渇水被害
☆ 旱魃時の高時川水争い
☆ 余呉湖の水環境
3. 異常気象による河川の影響と生活環境
☆ 復流水、地下水の保全
☆ 漁業の再生
☆ 新規利水への発展
☆ 河川環境の保全 水生植物、生態系の保全
4. 滋賀県生活排水事業との関連
5. 農業基盤整備に伴う農業生産性の向上と発展

以上

個人	121	大阪府 枚方市 脇阪
----	-----	------------

淀川水系での意見書について

堤防敷地をできるだけ巾広く確保して、その敷地を利用して自転車道(上流から下流まで)及び管理用道路等の確保を行う一方、地域住民が気軽に河川を利用できるよう堤防の法勾配をゆるやかにするとともに河川内には、張り出しの水制工や砂浜などを、設けて、魚釣り、水遊びなど、自由にできる場所がほしい。

個人	122	滋賀県大津市 戸川 義治
----	-----	--------------

河川の汚染は、目に見えているもの見えていないものも含めて、限界に来ているものと思います。

汚れは、「水に流せばおしまい」という考えがある限り改善されないと思います。すべての人は、汚いものは地球の外に行くとも思っているのでしょうか。

私の住んでいる大津市稲津と瀬田との境界付近に「篠部部川」と云う小さな川があります。

この川は、[夕照の道1と呼ばれている県道をくぐって瀬田川に注いでいます。

平素は、水量も少なく川と云う印象はありません。ところが、雨が降ると水の流れが復活します。

この流れの水の色が何と表現すればいいのか、黒茶色く濁って異臭を放つのです。

そして、瀬田川に注ぐところは泡立っています。

このような水を下流域の人たちは飲料水にしていると思うと気の毒になります。

上流部には工場はないのですが、ゴルフ場があります。

また、下水道が整備されてきていますが、それを利用しない(水洗化工事をしない)人があります。

整備されて10年以上も経過するのに、JR石山駅の周辺でも汚水が琵琶湖に直接流れ込んでいます。

資金がないから水洗化をしないと思われませんが、水洗化工事の法定期限が過ぎれば下水道を利用しなくても下水道利用料を徴収するべきだと思います。

大津市では下水道利用料の値上げが議会に提案されていますが、これを実施すれば値上げをしなくてもよいか、あるいは、値上げ幅を圧縮できるのではないかと考えます。

私は、約10余り年前に滋賀県に転居してきました。「知事への手紙」と云うものがあり、「ゴミ持ち帰り運動1. 1」を提唱しましたが、無視されました。自分が発生させたゴミの1. 1倍、すなわち余分に10%を持ち帰りましょうと云う趣旨でした。

湖に浮かぶポリ袋やジュースの空き缶を見ると、なぜこの運動が実現しないのか残念です。

個人	125	滋賀県伊香郡 栗原 基
----	-----	-------------

自然の猛威を宥め、清流を守ってほしい

1. 伊香群馬上村は高時川と次の3点で関わりがある。

(1) 水利 (2) 洪水 (3) 渡渉

2. 水利について

高時川の水によって流域の多くの村々が田畑の用水を与えられた。しかし、水量が常に豊富であるはずもなく渇水も度々経験し、静かに流れる清流の時ばかりでなく洪水も度々であった。

馬上村は古来古橋村妙臨寺の下に籠井という名前の井堰を設けて引水し、田畑を養ってきた。普段はもっと下流から引水していたようだが、なぜそんなに上流まで遡って用水を確保する必要があったのかは不詳であるが、馬上村の上流には、高野村、小山村があり、それらの集落がたいそう苦心しているのに、4 キロも離れた馬上村がそんなに上流から引水したのは不思議である。

丁野郷八ヶ村は、伝承によると、嘉吉の頃(1441～1443 年)三条公綱卿の私財によって、自郷近辺にあったと想定される梅壇井を、下井の直ぐ下手にまで移設(三条卿の私財による井堰から袂井の通称がある)し、さらに浅井亮政、久政に懇願して、遂に天文11年(1542)下井、大井、上水井の伊香3つの井を掛け越すことに成功した。

丁野卿は、この掛越以来、一方では伊香3つの井組と、他方では馬上村籠井組と度々悶着を起こしている。流血騒ぎまで生じたこれらの水不足による争いも、50 日、100 日の後の降雨により自然と消え去り、次の水不足までは平穏な村人の生活が続いたのであった。

これらの騒動は、昭和 62 年(1987)竣工した湖北水利事業によって、用水路が整備されるとともに、不足水量を琵琶湖から余呉湖経由で引水することができるようになり、漸く解消された。

3. 洪水について

高時川は豊かな恩恵を与えることが多かったが、反面被害を与えることも度々であった。最近でも、慶応4年(1868)5月、明治 28 年(1885)7 月、明治 29 年9月の洪水は特筆されるべきものがある。高時川沿岸住民は 30 年間にして3度まで史上稀な大洪水を経験したことになる。時間雨量 100 ミリを超える雨量で、高時川堤防は川合村以南でことごとく堤防を押し流し、高時川流域では多くの水田に泥水を押し被せ、人家を流失、水没せしめた。明治 28、29 年洪水とも、馬上村では、住民は馬上山に逃げ上り数日山上で生活し、各年とも流失家屋1戸、浸水家屋は全集落の7割、80 戸にも達し、馬上山はあちこちで崩落し、全耕地 600 反余は泥流で覆いつくされ、復旧までに数年を要した。この災害で6円余の恩賜金を16戸が受けた。雨森堤防施設の遅延を厭い、明治32年(1899)には雨林との郷境に横堤防を作る強硬策を講じたこともあった。

4. 渡渉について

江戸時代北国脇街道が通じる馬上村と対岸の柏原村は、助郷として渡しの世話を命じられていた。隔年あるいは2年交代で世話役を交替しながら明治 18 年(1885)まで、橋を架設したわずかの期間を除いて、連綿として渡しの役目を果たしてきた。

天保 13 年(1842)越前藩主から得た金子 175 両でやっと無賃橋を架けることが出来たが、慶応 4 年(1868)5 月大洪水で流失し、またもや船渡しとなった。毎日 3 人当出役する渡し役は馬上村には相当な負担となった。明治 18 年(1885)馬上村と柏原村は、自普請にて架橋し、「馬上人民妹川橋」と名付けた。しかし、その後も妹川橋、通称馬上橋の全流失、半流失は続き、昭和6年(1931)300メートル下方にコンクリート構造の阿弥陀橋が架設され、不安が解消された。

5. 水の過多と過少の解消は馬上区民の願い

高時川は普段は周辺流域に豊かな伏流水を提供する優しい川である。時に上記のような過多や過少があり、周辺住民に大きな被害を蒙らせることがある。

今回進められている丹生川ダムが水量調節の役目を十分果たせるならば、周辺住民の苦しみを減じるものとして歓迎できる。そのためにも、一般論として提起されている自然破壊やダムができたが故に惹起されるかもしれない災害が防止されるよう、十分研究してもらいたい。

個人	126	京都府宇治市 宮井 宏
----	-----	-------------

琵琶湖・淀川のさらなる水質改善のために(提案)

一. 琵琶湖・淀川水系の新たな水質環境基準の設定

- 1) 河川整備計画の中で,新たな水質・水量環境基準(または計画目標)を設定すること。
- 2) 上記基準を達成するための具体的方策を示すこと。
- 3) それら方策の実施順位を示すこと。
- 4) 方策の優劣を、B/C により評価すること。

二. 新たな水質・水量環境基準には次の視点を考慮すること

- 1) 水道原水と各種排水の分離(用排水分離)
- 2) 上記1)を達成するために,神崎川,寝屋川, 大和川など,すでに水道水源として利用されていない河川は,非水源河川として位置づける。
- 3) 非水源河川では,従来の水質環境基準を達成すればよいものとし,その他の水源河川では,さらに高度な基準達成を目指すものとする。
- 4) 水源河川の環境基準では,水道原水に適するのみならず,水泳も可能な基準とする。

三. 上記水質・水量環境基準を達成するためには,淀川の河川維持用水の再配分が不可欠

- 1) 琵琶湖流域の下水の三次処理水を,大和川支川佐保川に入れ,さらにこの水を,亀の瀬下流で二つに分けて,寝屋川支川恩智川と大和川本川とに入れる。
すなわち,琵琶湖内での N,P の蓄積を減ずるとともに,あわせて大和川と寝屋川の浄化をも行う。
- 2) 既設の寝屋川の浄化用水は,水量を減じた上で,河川維持用水としての位置づけを行う。
- 3) 淀川水質保全水路の流末は神崎川とする。
- 4) 従来の神崎川の維持用水は,新淀川の維持用水にふりかえ,大堰の魚道を通して下流に放流する。
- 5) 旧淀川の河川維持用水量も,必要に応じて見直す。
- 6) 長柄可動堰の嵩上げで産み出した 10 トン/毎秒の利水用水は,国で買い戻したうえ,あらためて維持用水として位置づける。

以上提案いたします。御検討ください。

個人	127	京都府北桑田郡 山内 栄美
----	-----	---------------

私の川への想い

私は、5歳のとき桂川の近くに引っ越してきました。街中からの引越しでしたので田んぼや用水路見るものすべてがはじめてでした。用水路はまだ、土の土手だったので田植えの前には農家の方や私の父も泥上げや草刈をしてその後近くのポンプ小屋からきれいな水が流れどじょうをとったりザリガニを採ったり、たまに大水が出ると鯉やフナがたくさんとれた記憶が残っています。でも、川での遊泳は禁止でした。『桂川には藻がたくさんあって足に絡みついたら泳げる人でも溺れる・・・』

子供が出来、桜の咲くころには自転車道を通って八幡の堤防の桜を見に行ったり、嵐山までサイクリングをしたりしました。公園もきれいに整備され昔とは全然違います。

琵琶湖では、魚の病気が問題になっています。冷水病に侵された水は淀川水系にも影響がでだしているとのこと。私たちは普段あまり川魚を食べませんが琵琶湖で生育した魚(鮎、もろこ他)水質の悪化はなかなかとまらないようです。未来の子供たちに私たちが残さなければならないものは、少しでも良い環境 水、空気、緑川や湖が、なぜ、これほど汚染されてしまったのか今、危機感を持って臨まなければならない。

認識を確かなものにする為には、小、中学生および学生と行政工事関係者などが一体となり源流から海まで又は、合流地点までをツアーしてみたいかでしょうか？そこで又、実際目で見ることによって意見交換ができるのではないのでしょうか。昔から百聞は一見にしかずと言うことわざがあるように机に向かって考えても仕方がない実際に見て聞いて大人が子ども達の前で、どうしていくべきか、そして、何を望むのかどうしたら良いのかそんなツアーがあれば大人(行政、各団体他)が子供たちにどんな説明をされるのか？もしも、そんな企画がとおれば私は、ぜひ参加してみたいなあ……。

それと、川を守るにあたって忘れてはならないのは、山！山の木々が豊かな水を生み出すそれは誰でも知っておられるでしょうが、実際、山の木が昔のように輸入材に押されとても緊迫した状態で山を持っておられる地主の方たちや管理する人たちの人手不足それと木が売れないと手入れにお金がかかる木に今ではほとんど山の手入れが出来ていない山がたくさんあるそうです。山だけ川だけを考えていてもどうしようもない皆で垣根を越えた対策を考えなければならない時期にきているのではないのでしょうか？

個人	128	大阪府大阪市 前田 光裕
----	-----	--------------

未来へ贈り物

私は、よく釣りに行きます。そこでよく見る産業廃棄物の不法投棄やその他などです。リサイクル法の施行により以前より増えているのが現状です。ハイカーや釣り人のだすゴミも問題であり、外来魚による生態系の崩壊。私は、近畿の何か所かの河川を北海道の様に全面的に禁漁にすべきだと思います。

私は、河川だけでなく淀川の源である琵琶湖に原点があると思い、ましてや近畿の水瓶である琵琶湖なしでは語れないと思う。琵琶湖の一部を立ち入り禁止の地区を作り、アシやヨシを植え、人工干潟を作る。もし河川に汚水や不法投棄などをする人が居なければ、少しは、今より水は、汚れる事はない。昔のテレビの CM で言っていたように(獲るのは写真だけ、残していいのは足跡だけ)手本となる他の国を見習うべきだ。

個人	130	大阪府大東市 百田 重行
----	-----	--------------

「あなたの思いが、淀川を変える」

木津川と私の水石趣味

私は現役時代、木津川へ10年以上、マイカーで通った。

木津川、桂川、宇治川、瀬田川からは、古来から名高い水石を産出している。毎年、これらの水石を展示した愛石展は、京都・大阪・宇治等で、盛大に開催されている。

私はことのほか、木津川にのめりこんで、休日毎に採石に精を出した。お陰で、私の部屋は拳大の石ころで、飾り立てられている。

私は現在、定年退職者だが、水石の普及を図るために、愛石店の開業を計画している。また、木津川べりに「水石博物館」を建立したいと夢想している。

上流で山から転落した岩石が、水と砂にもまれ磨かれて、中流あたりで程好い形に作られて、私たち愛石家に発見されて拾われる。

自然的美術品の誕生である。

島形石、孤峰形石、岩瀉石、連山形石、仏像形石、段々形石等がある。

石肌は、梨地肌、巢穴肌、すべすべ肌、ざらざら肌等がある。

石色は、黒、赤、青、ミカン色等がある。黒色は真黒(まぐろ)肌と呼ばれて、特に珍重されている。

木津川の流れは、永遠であろう。

私という愛石家の生命は、有限である。

水石は、川の中流で発見し、拾わなければ、下流まで流されれば砂粒の固まりに変えられてしまうのである。

川を愛する学識者の方に、私は訴えたい。

自然的美術品である水石を、永久保存する「河川博物館建立」の世論喚起にお力を貸していただきたい。

各一級有名河川に、各「河川博物館」を建立して、その河川の古代から現代まで、そして、永遠の営みを続ける創造作用を広く、展示していただきたい。

個人	131-01	京都府京都市 可畑 輝久夫
----	--------	---------------

河川についての意見書

私は、世間が狭い事に加え、よく事情を存じ上げずに申し上げる事をお許し下さい。

桂川の詳細はよく分かりませんが、宇治川には上流に琵琶湖という日本一の水瓶があります。僅か十センチの水嵩も膨大な水量になるのを南郷の洗堰により調整され、更に、その下流に有る天ヶ瀬ダムで、一時の大洪水を凌ぐことが出来ていると思います。

一方、木津川の上流には、高山ダムと青蓮寺ダムがありますが、山の奥深くである為に、一時の洪水には堪える事が出来ないのではないかと思います。

また、素人の考えで浅はかとは存じますが、その生津町の人家の前あたりでは、水流の関係か、川底が抉られ水深が有り非常に危険な状態です。

しかも、川の中には柳などの大きな木が生え、年毎に増え続け、水の流れを損なっている様に思われます。そこで、まず、早急に、川底やその周辺のそれらの木や泥等を取り除いて戴けたらと切望致しております。

堤防の方は、毎年、草刈りを実施して戴き、きれいにして戴いているのは有り難く感謝し、喜んでおります。

どうか、川の中も同様に、きれいに大切に戴きたく、浅はかな素人の考えで恐縮ですが、何卒、聞き入れて下さいますようお願い申し上げます。

個人	131-02	京都府京都市 片岡 和夫
----	--------	--------------

・河川敷利用は、曲線は避ける事

可能な限り、中央部に流れるように整備されたい

・野鳥、野草の自然保護に努める事

近年周辺の山野開発により、野鳥は山城地方3大生息地の1つの木津川河川敷に戻りつつある。やすらぎを覚える
周辺の耕作田の被害を及ぼすことを考慮すること

個人	131-03	京都府京都市 可畑 博康
----	--------	--------------

私達住民は昭和 28 年の向島地区の堤防決壊での洪水の経験、その当時度々の増水で昼夜の警戒で水の恐ろしさは常に忘れる事なく、又、最近では堤防の補強工事による矢板の影響で地下水の問題が生じ河川による数多くの害があり、なにか住民に対してのメリットが欲しいように思われます。そこで現行の問題点及び将来の要望点を書き上げます。

現行の問題点

- 1 . 川の流れを中心に持ってくる(久御山のグラウンドが問題と考えられる)
- 1 . 堤防の土質が心配(堤防外側根じき石積のずれ)
(用水路へ土砂が流れ落ちる)
- 1 . 堤防上の車の通行による埃
- 1 . 害虫の発生により洗濯物につく
- 1 . ヘビ(まむし)もぐら、いたち等が田畑に被害を及ぼす
- 1 . 台風による強風が堤防に当り、風筋が民家を直撃
- 1 . 地域の発展性がなく用心が悪い(最近不審者が多い)
- 1 . 子供達の事故の心配
- 1 . 堤防際の家では雑草のため涼しい風がこない(夏)
- 1 . 上流より民家側の川幅が狭くなっている

以上、安心して暮らせるように拡張(高さを含め)考えて頂きたいです

現在の川の状況

- 1 . 民家前の流れの当り
- 1 . 民家前の洪水敷が低い
- 1 . 13年6月の陥没による堤防全体が心配
- 1 . 桂川、宇治川、木津川三川の同時豪雨が心配
- 1 . 現行矢板工事による地下水問題
- 1 . 上流より民家前の川幅が狭く、水流の当りが強い
- 1 . 雑木により自殺者がある

将来考えられるなら、民家前にソーラ又は風車等を設置、電気を起し、住民に対してメリットを与えるスーパー堤防にして欲しい

個人	131-04	京都府京都市 可畑 修道
----	--------	--------------

木津川堤防の除草が少なく、特に夏場になると草が生い茂って、散歩するにも危険な状態になり、近づきがたくなる。
又、子供達も遊ぶのに危険になるから、もっと除草作業を多くしてもらいたい。

個人	131-05	京都府京都市 可畑 正史
----	--------	--------------

淀川のように細く、深く、真中で流れると良いと思います。

個人	131-06	京都府京都市 谷 吉明
----	--------	-------------

決壊に対する要望事項について

昭和28年13号台風だったと思います。宇治川堤防が決壊し、家屋が浸水、田畑の作物は収穫が出来ず、生活に支障が起きました。広い範囲で泥沼になり、孤立状態が3～4日続きました。食料、水等に困りました。木津川では、堤防頂点から水が溢れ、危険状態であった。木津川堤防が決壊しておれば、家屋は倒壊、人命にも影響が出ていたと思う。水害が発生すれば多大な被害を受けるのは住民です。国土交通省は整備をして戴いておりますが、より一層の整備強化をお願い致します。

さて下記の通り要望致します

記

- 1．木津川全般に「柳の木、葦等」を伐採して、増水時水の流れを激流にするようにし、流れを抱かないようにする
- 2．丘の砂を取り、整備整地して、河川敷の中心部に水が流れるようにする
- 3．堤防の斜面の雑草は梅雨時から台風の季節(10月頃)30センチ以上伸ばさないように刈取、環境をよくする
- 4．生津地区民家側堤防の下側東西、石垣が崩れかかっている。補修が必要
- 5．木津川河川敷まで水泳が出来る場所を設置整備して、環境作りをして戴きたい。

個人	131-07	京都府京都市 西林
----	--------	-----------

問題点

木津川の生津地区の水流が昔と大きく変わっています。

水のあたりがきつくあたって、掘りかえり、深くなって大変危険です。

堤防のブロックが陥没して、穴があいています。

家の前に積んである石垣のすき間が大きく、すきがあいてきています。

地震や台風や大雨などの災害で、生津地区の弱い所の堤防が切れないようにお願いします。

理想・要望

地震や台風や大雨などの災害でも、ゆるやかに流れるような穏やかな川がよいと思います。

方法

上流の久御山運動広場と対岸の川口運動広場の砂を半分ずつ削りとり、その砂を生津地区にまわして、生津運動広場を作って、生津の前の川巾を広くして、直接に水があたらないようにしてほしいです。

個人	131-08	京都府京都市 山本 善嗣
----	--------	--------------

澄みきった水の流れ、自然との調和のとれた美しい景観、動植物の保護と共存、非常に結構な事であるが、それも安全が確保できた上でのことである。当地域は、昭和28年の13号台風による豪雨により宇治川の向島堤の決壊により床上浸水、田畑の冠水等大きな被害を経験している。しかし幸いにも破堤箇所とはかなりの距離があった為、避難や家財の搬出に時間的な余裕があったのでまだ救われたところもあったようである。現在では堤防の補強、宇治川、木津川上流ダムの整備が拡充し、局地的な大雨での増水には各河川ダムの放水量調節等により堤防決壊の危険性はだいぶ減少したものと想像します。しかし50年に1度、100年に1度の広域的な記録破りの豪雨はいつ襲ってくるかは予想できない。来年かもしれない。当地域の前を流れる木津川の堤防は現在、川底が随分下がったこともあって、あまり見られないが昭和40年位までには増水時には、漏水、沸き水が頻雑にみられたものである。その後、法面補強等の対策が施され幾分安心感が増した。そして今、急場しのぎ的に矢板うち工事がすすめられているようであるが、別次元で地下水脈遮断による農業用、生活用地下水の枯渇等の問題が表面化して来ている。水流蛇行による法面の洗屈、堤防幅員の狭さく、下流域の雑木繁茂等、大変危険な要因を抱えているように認識しております。居住域での堤防決壊などが起きれば、浸水冠水どころではありません。河川に対する国の基本的な考え方が、人の生命と財産を洪水から守る頑強な堤防づくりからワンドやヨシ原を造ったり、自然との調和を考えて…に移行しつつあるように見受けられるが、前後に大きな河川に挟まれたところに暮らす者にとって何より安心して生活できる環境こそ最も重要な要素です。大局的な見地から引き堤を視野に入れた抜本的な対策を講じていただき安心して生活できる環境を造っていただきますよう切望いたします。

個人	131-09	京都府京都市 佐野 繁一
----	--------	--------------

水と緑とゆとりのふれあい公園への構想

河川の護岸工事については、水災害から住民の生活を守るという目的とともに緑豊かな河川敷をとの想いで施工されておられることと思いますが、河川敷の整備に当たっては、流域住民を初めとする多くの人々が気軽に利用できるような「水と緑とゆとりのふれあい公園」に整備する必要があります。

もともと公園や遊歩道、自動車道などが設けられているところもあるが、まだまだ整備できる場所が多くあり、長期的かつ総合的な整備計画を策定し、それに基づいて河川改修を図っていくことが重要である。

なお、整備計画の策定に当たっては、現在、すでに整備されている公園や遊歩道などについての問題点を抽出して検討し、それらの改善策を見出すとともに、当該整備計画に反映させることが大切である。

問題点の一つとして、すでに完備している公園や遊歩道について流域住民はもちろんのこと、人々の十分な利用が認められてないことが上げられる。

その要因を考えると、アクセスするための進入路、駐車場等の整備不足、公園におけるし尿処理対策や定期的な清掃管理などが数えられ、集客のためのサービスに欠けることが最大の要因であると思われる。

そこで、流域住民を始めとする多くの人々に気安く利用できるようなものに構築するためには、美しい河川へと変貌させ、公園、ミニの運動場や球技場、散策路など老若男女が気楽に集い、思い思いの趣味、娯楽が楽しめるようなものをアクセスなども含めて、トータル的な環境整備を構築されることを提案する。

個人	131-10	京都府京都市 南山 喜一
----	--------	--------------

私達の住んでいる地域は、宇治川左岸と木津川右岸に囲まれた昭和28年の大水害を蒙った地域です。

淀川水系の最大の河川、木津川の恐さは十二分に知りつくしております。決壊寸前までの状況を私自身で、2度経験しております。

何が問題かと言うと、やはり三河合流で、桂川・宇治川・木津川水系上流で同時に200年に1度の雨量を観測した場合、どの河川の堤防を越え、また洗駆される事はまず間違いない事実であろう。

そこで、堤防高及び全体、強度の補強を早急に行う必要あり。また、河川の中に茂っている樹木の伐採を計画的に進めるべきではないでしょうか。

新しく作られた堤防には、中心にハガネ土が施されているようだが、明治に作られた木津川右岸0kmから7kmには、ハガネ土が施されていないと聞きます。これも問題点だと思います。スーパー堤防の設置が必要では。以上です。

個人	131-11	京都府京都市 林 種男
----	--------	-------------

- 1．川の流れを真中にしてほしい
- 2．堤防には粘土の芯があると聞くが、なぜ木津川の堤防にはないのか
- 3．堤防の草刈りは毎年2回の所を3回～4回民家の前だけでも刈ってほしい
 - ・ 夏にはへびやまむしが庭の涼しい所へ下りてくる
 - ・ 秋にはカメムシが大量発生して洗濯物について臭くてこまる

個人	131-12	京都府京都市 大野 氏隆
----	--------	--------------

ここ生津町は木津川のすぐそばに位置し、水も豊かだった。井戸水や簡易水道の水脈が木津川の砂利採取や人為的な工事の為、やがて濁り、水の出も悪くなり、京都市の水道に頼らざるを得なくなった。しかし、夏場はカルキの臭いもきつくなり、以前の水が恋しい。

水は云うまでもなく、人が生活して行く上で、又、農作物や樹木や草花が育つ上でも、自然の雨だけでは、とても賄いきれない。となると、頼りは貯水池に溜められた水や、近畿の水ガメである琵琶湖になる。川や湖の水を汚さないことは言うまでもない。

又、水害に合わない様に護岸工事等、諸々の事業は当然であるが、行政上の問題だけで行うのではなく、何にでも表裏がある様に、その地域にどの様な影響が出るか、人々の暮らしに支障を来さないか、まずそれらを考えた上で実行して頂ければ、私達が今回の様に困る事態にもならなかったのではないかと思う。

個人	131-13	京都府京都市 可畑 利国
----	--------	--------------

- 堤防が決壊しない様に補強してほしいと思います。
- 木津川の流れを変える工事をされた場所、もう少し長く延してほしいと思います。
- 河川敷を遊歩道にしてほしいと思います。

個人	131-14	京都府京都市 可畑 文昭
----	--------	--------------

淀川水系(特に木津川)の問題点

1. 水質悪化
2. 河床に雑木・雑草が多い
3. 堤体が貧弱

理想

1. BOD・COD・SS 等については報道等により改善されているようですが、特に水の色について排出基準を強化して1940年代の頃にするべき。
2. 木津川の河原は砂でできていたはず、雑木・雑草を伐採するのではなく生えないように根絶すべき。
3. スーパー堤防を早期実現

木津川が毎日の生活に安心と潤いのある川になるように官民が協力すべきである。

個人	132	京都府京田辺市 岡田 典悦
----	-----	---------------

私の在住している京田辺市には、一級河川木津川が流れています。

木津川には、多くの緑や水辺空間が残されていますが、一方では、市民が集える公園施設が整備されています。過去には、水泳場もありました。今後も、貴重な緑や動植物の生存場所は、生態観察などを通じた学びの場としても、計画的に残しつつ、一方では、市民がコミュニティーを図ったり水と親しめる場所として、場所を限った上で、活用を図っていただきたいと思います。

個人	133	三重県上野市 森野 広栄
----	-----	--------------

河川を生かしたコミュニティづくりについて

河川は古代より人と川、人と自然、そして、人と人との交流の場であり、安らぎの場でもあり、地域の文化や歴史を育むために大きな役割を果たしてまいりました。近年、オープンスペースとしての河川空間の効果的な活用に多くの自治体に取り組んでおり、公園やゴルフ場、テニスコート、ジョギングコース、遊歩道、グランドゴルフ場などの体育施設等に利用されております。

国は昨年「健康日本21」を打ち出し、子どもからお年寄りにいたるまで、健康で生き生きとした生活を送ることを目的としています。健康には栄養、運動、休養を欠かすことができませんが、特に運動のためにはできるだけ身近な場所に遊んだり、運動をしたりできる場が必要です。しかし、公園整備や体育施設整備するためには用地確保が必要で、河川敷を利用することはそのよい解決策となっています。たとえば、東京の多摩川や名古屋の庄内川、大阪の淀川、近くでは滋賀県水口町など全国的に数多くの自治体で実施されています。

上野市にも多くの河川がありますが、河川敷の利用がほとんどされておりません。以前、建設省によってアピタ前の服部川河川敷の整備がされ、道路からの乗降階段も整備されましたが、施設が整備されていないためそのまま放置されており、現在は草が生い茂り元の状態に戻りつつあります。

今、上野市の地域スポーツとしてグランドゴルフが大変盛んになってきておりますが、広い場所が必要なため、グランドゴルフ場が少ない現在、ほとんどの方々が遠くまで行って練習や試合をするしかなく、グランドゴルフ場の整備が望まれております。高齢者医療費総額も59億円と年々増加傾向を続けております。地域スポーツ振興と健康保持のためにアピタ前の服部川河川敷の整備等についてご提案いたします。ご検討いただきますようお願いいたします。

平成13年 12 月 20 日